



東京油問屋市場 第123回起業祭を開催

と き 令和5年3月24日（金）17:00～18:30
ところ ロイヤルパークホテル（東京・中央区）

東京油問屋市場は4年ぶりに起業祭を開催した。
式典では、島田 豪理事長の式辞朗読に続いて、喜田正道情報委員長が、市場の今後の更なる発展を祈念し、盛大に油ヅを行なった。

引き続き宇田川公喜副理事長が、式辞の内容に関して、万治3年（1660年）に設けられた江戸油仲間寄合所や元禄7年（1694年）に結成された『江戸十組問屋』にまで遡る、開所363年の市場の歴史の一端を披露するなど、式典の趣旨を分かりやすく解説した。

その後の懇親会では、始めに島田理事長が「冒頭に式辞を朗読させていただき、その中で歴史を非常に深く感じた。私の祖父が七代目、十代目の理事長を、私の父が二十代目の理事長をさせていただいたり、この灯は消せないと思ったのはもちろんのこと、次にバトンタッチしなければならぬという重みも感じた」「メーカー様に良い油を作っていただき、それを私たちの努力で販売し、少しでも日本経済の発展に貢献できれば幸いである」と挨拶した。また、来賓を代表して一般社団法人日本植物油協会の新妻一彦会長（昭和産業㈱社長）から「植物油は健康維持に不可欠であり、重要なエネルギー源として機能、風味、おいしさが評価され食生活に定着している。油脂製品の価値を再認識し、消費者に油脂製品の新たな価値を提供し続けていく」と御挨拶を賜った。

その後、全油販連 館野洋一郎会長が「われわれ油問屋は、卸の団体・企業として世の中に油を広げる、油脂の価値を広げる、日本の油脂を使った良い商品をもっと世の中に知っていただくということを皆様と一緒に取り組んでいきたいと思っている」と乾杯の挨拶を行ない、立食パーティの和やかな懇親の後、最後は穴水健治副理事長が油ヅで締め括った。

（写真提供 油脂特報社）



式典の様子



油ヅ



島田理事長 挨拶



日油協新妻会長 来賓ご挨拶



全油販連館野会長 乾杯



穴水副理事長 油ヅ